学校番号	T3006

令和５年度　建築計画（生活デザイン系列）

教科	工業	科目	建築計画	単位数	2	年次	3
使用教科書	「建築計画」　（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

建築計画は、建築物を計画する上で検討すべき環境学、計画学、設備計画、建築史を学習する。ここで、学ぶ内容は実際に建築物を計画する者の立場からの内容であるだけではなく利用するものの立場に立って計画することも大切で、上記に挙げた内容だけではなく建築構造、建築施工、建築法規の内容も相互に関係するので、他の科目も理解した上で授業に臨むことが大切である。

2　学習の到達目標

建築計画をする上で必要となる環境学、計画学、設備計画などに関する基礎的・基本的な知識を習得させ、建築計画における各分野の役割を理解させるとともに、快適性・安全性・芸術性を兼ね備えた建築物を検討・計画できる能力と態度を身につけさせる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	建築計画に興味･関心をもち､その目的や意義をはじめ､建築物のつくり出される過程とのかかわりなどを理解するため､真摯な態度で意欲的に取り組んでいる。	建築計画にかかわる問題点や課題を建築の各分野の基礎的･基本的な知識･技術を活用して思考・判断し、その解決策を的確に表現できる能力を身につけている。	建築の各分野の基礎的・基本的な知識・技術を活用して立案した建築計画を合理的かつ適切なものにするため、その根拠となるデータや数値を抽出・算出できる実験・実習の方法を習得している。	建築計画にかかわる基礎的・基本的な知識･技術や実験･実習を通して、設計者としての望ましい心構えや態度を身につけるとともに、建築計画の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 定期考査 プリント提出	学習状況の観察 定期考査 プリント提出	学習状況の観察 定期考査 プリント提出	学習状況の観察 定期考査 プリント提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
(前期) 4・5月	「建築計画」を学ぶにあたって・第1章 建築と環境	「建築計画」を学ぶにあたって 第1章 建築と環境 1 建築と環境の概要 2 屋外環境と室内環境 3 換気と通風	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a: 建築計画の歴史や地球環境と建築計画とのかかわりや建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風に関心をもち、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数などの計算方法などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b: 建築計画の歴史や地球環境と建築計画とのかかわりや建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風のほか、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数の計算方法などについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c: 建築計画の歴史や地球環境と建築計画とのかかわりや建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風のほか、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数の計算方法などを習得している。 d: 建築計画の歴史や地球環境と建築計画とのかかわりや建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風のほか、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数の計算方法などを理解している。	学習状況の観察 プリントの記述 定期考査
		前期中間考査	○	○		○		定期考査

(前期) 6・7月	第1章 建築と環境	第1章 4 伝熱と結露 5 日照と日射 6 採光と照明 7 色彩 8 音響	○	○	○	○	a:室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明に関心をもち、熱貫流率などの計算方法や日影図の作成方法、結露防止、さらに色彩や音響に関心をもち、彩色計画の進め方や騒音防止、最適残響時間の計算方法などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b: 室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明をはじめ、熱貫流率などの計算方法や日影の作成方法、結露防止、さらに色彩や音響をはじめ、色彩計画の進め方や騒音防止、最適残響時間の計算方法などについてについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c: 室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明をはじめ、結露防止や熱貫流率の計算方法や日影図の作成方法、さらに色彩や音響をはじめ、色彩計画の進め方や騒音防止、最適残響時間の計算方法などを習得している。 d: 室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明はじめ、結露防止や熱貫流率の計算方法、日影図の作成方法、さらに色彩や音響をはじめ、色彩計画の進め方や騒音防止、最適残響時間などを理解している。	学習状況の観察 プリントの記述 定期考査
		前期中間考査	○	○		○		定期考査

(前期)9・10月	第2章　住宅の計画・第3章　各種建築物の計画・第4章　都市と地域の計	第2章 1　住宅の意義 2　住宅計画の進め方 3　全体計画 4　各部の計画 第3章 1　集合住宅の計画 2　事務所の計画 3　小学校の計画 第4章 1　都市と都市計画 2　都市計画制度と都市計画法 3　建築と地域の計画 4　地域の計画とまちづくり 前期期末考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a: 住宅・集合住宅などの役割・種類をはじめ、それらを構成する基本的な空間や性能、計画の進め方に関心をもち、計画上の特質などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b: 住宅・集合住宅などの役割・種類をはじめ、それらを構成する基本的な空間や性能、計画の進め方を思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c: 住宅・集合住宅などの役割・種類をはじめ、それらを構成する基本的な空間や性能、計画の進め方を習得している。 d: 住宅・集合住宅などの役割・種類をはじめ、それらを構成する基本的な空間や性能、計画の進め方を理解している。	学習状況の観察 プリントの記述 定期考査 定期考査
(後期)11月・12月	第5章　建築設備の計画	第5章　建築設備の計画 1　建築設備の概要 2　給排水・衛生設備 3　空気調和・換気設備 4　電気設備 5　防災設備 6　搬送設備 後期中間考査	○ ○	○ ○	○ 	○ ○	a: 建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などに関心をもち、これらの計画の方法などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b: 建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などをはじめ、これらの計画の方法などについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c: 建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などをはじめ、これらの計画の方法などを習得している。 d: 建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などをはじめ、これらの計画の方法などを理解している。	学習状況の観察 プリントの記述 定期考査 定期考査

(後期)1・2・3月	第6章　建築の移り変わり	第6章　建築の移り変わり 1　日本の建築(原始から近世まで) 2　西洋の建築(古代から近世まで) 3　近代の建築 4　現代の建築	○	○	○	○	a: 日本、西洋、近代、現代の建築における各種建築、都市の移り変わりなどに関心をもち、地域・時代ごとの建築物に受け継がれている基本的な考え方などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b: 日本、西洋、近代、現代の建築における各種建築、都市の移り変わりなどをはじめ、地域・時代ごとの建築物に受け継がれている建築の基本的な考え方などについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c: 日本、西洋、近代、現代の建築における各種建築、都市の移り変わりなどをはじめ、地域・時代ごとの建築物に受け継がれている建築の基本的な考え方などを習得しいる。 d: 日本、西洋、近代、現代の建築における各種建築、都市の移り変わりなどをはじめ、地域・時代ごとの建築物に受け継がれている建築の基本的な考え方などを理解している。	学習状況の観察 プリントの記述 定期考査
		学年末考査	○	○		○		定期考査

表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。